夢 通信

平成29年 8月号

夢をつなぐ　心をつなぐ　世界をむすぶ

きぬがわ せいさ こうぎょう
衣川製鎖工業株式会社
衣川宅介

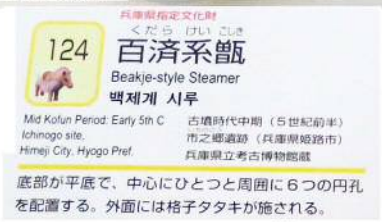
渡来人いずこより『百済系の甑』

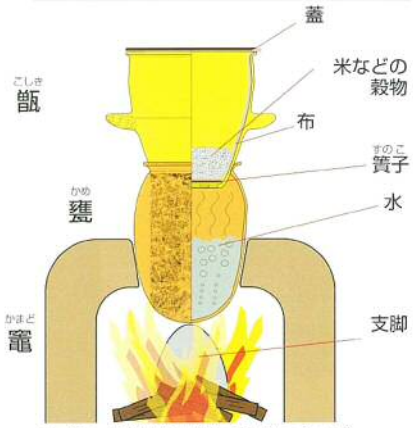
風土記は、国によってそれぞれに特色があります。『播磨国風土記』は和銅８年（ 715年）、最初に完成した風土記です。特徴は土地の肥沃を忠実に記載、地名の起源や由来も詳しく、土地の産物も記入されています。神話、『古事記』や『日本書紀』、又、他の風土記には見られない独自の神話伝承も書きとどめています。

もう一つの特徴は渡来伝承です。半島からの渡来をこれほどくわしく書いている風土記はほかには見られません。かかわりのある地名、あるいはそれと関係のある伝説、その人名などもくわしく書いています。それは、風土記の編纂メンバーに、朝鮮半島から渡ってきた人の子孫がいたからだと言われています。国司には守（かみ）、介（すけ）、掾（じょう）、目（さかん）の四等官がありましたが、この頃、播磨国の大目に楽浪河内（さざなみのかわち）という人がいました。この人は百済（くだら）から日本に渡来した、お坊さん詠（えい）の子孫で、後に大学頭も務めた奈良時代の貴族、文人、歌人です。渡来は天智２年（ 663年白村江の戦の年）です。

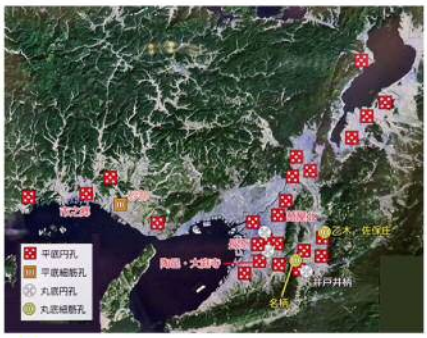
播磨の遺跡や古墳には渡来人との関わりを示す出土品が多く含まれています。市之郷遺跡は、昨年（2016年）３月に出来たJR東姫路駅の北にある弥生時代から古墳時代、中世までの集落跡です。古墳時代で注目されるのは、中期から後期の遺構です。今回の調査場所の近くからは、韓式系土器や初期須恵器。市内では初期段階の造付けかまどを持つ古墳時代中期の竪穴住居跡が確認されています。市之郷遺跡、現地説明会資料では韓式系土器と表示されている甑（こしき：食べ物を蒸す道具）がありました。４月に開催された大阪歴史博物館の特別展『渡来人いずこより』では、『百済系の甑』（５世紀前半）として展示され、その分布が韓半島と近畿地方で地図上に表示されていました。

同様の甑の出土例は姫路地域で３例あります。市之郷遺跡は現在市川の右岸にあり、畑田遺跡と小婦方（こぶかた）遺跡は市川の左岸にあります。この小婦方遺跡は『播磨国風土記』の作成に関わったとされる、楽浪河内（さざなみかわち）の居住伝承のある姫路市飾東町佐良和（さろう）のすぐ南に位置しています。





（土器の右半分は内側を表現している）



参考図書
播磨国風土記　上田政昭　播磨学研究所編　神戸新聞総合出版ｾﾝﾀｰ1996
特別展　渡来人いずこより　大阪歴史博物館　図録　2017.04.26
姫路市埋蔵文化財センター
市之郷遺跡発掘調査現地説明会資料　平成29年4月8日（土）

キルナ鉱山の
磁鉄鉱

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！　ふしぎ体感

ホームページと電子メールをご利用ください。
http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/
ryou@memenet.or.jp